

令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和6年6月18日
愛知県

- 1 病害虫名：クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)
- 2 作物名：モモ
- 3 確認地域：尾張地域
- 4 本県における発生確認の経過
令和6年6月中旬、尾張地域のモモ生産園地において本種成虫雌1頭が捕獲された(図1)。
- 5 全国及び本県における発生状況等
 - (1) 国内では平成23年に埼玉県で初めて成虫が確認されて以来、愛知県(生産園地外)、徳島県、大阪府、群馬県、東京都、栃木県、奈良県、和歌山県、茨城県、三重県、神奈川県、兵庫県の13都府県で発生が確認されている。
 - (2) 発生地では、公園等のサクラやウメなどで幼虫の穿孔食害による枯死被害が大きく、果樹園ではモモ、スモモ、ウメ等で同様の被害が出ている。
 - (3) 本県では、平成24年7月、海部地域のサクラで成虫が初めて確認された。以降、同地域から名古屋市南部にかけて、街路樹のサクラ等を中心に、本種成虫やフラス*が確認されている。今回のモモでの成虫確認は、本県の果樹生産園地における初確認である。
*幼虫が樹内を食害しながら排泄する糞と木くずが混じったもの(図2)
 - (4) 成虫確認園地及び半径50m以内にあるモモの生産園地において調査を行ったが、本種のものと思われるフラスは確認されていない。また、成虫も捕獲された1頭のみであった。
- 6 形態と生態
 - (1) 成虫は体長28~37mm。通常、前胸背板を除き光沢のある黒色を呈する。前胸背板は明赤色だが、個体により黒色となる(黒色個体はわが国未報告)。触角と脚部は暗青灰色。前胸背板には4つの小突起を備え、両側部の突起は側方に突出し目立つ。
 - (2) 樹木内部で蛹から羽化した成虫が6月上旬から8月上旬に出現し、交尾・産卵する。産卵は幹や樹皮の割れ目に行い、8~9日後には卵が孵化し、幼虫が樹木内部に食入する。幼虫期間は2~3年、春~初夏の摂食が盛んであり、この時期にフラスが多く見られる。

表1 もものクビアカツヤカミキリ・カミキリムシ類に登録のある主な農薬（幼虫対象）

農薬の種類	農薬の名称	使用時期
フェンプロパトリンエアゾル	ベニカカミキリムシエアゾール	収穫前日まで
	ロビンフッド	収穫前日まで
スタイナーネマ カーポカプサエ剤	バイオセーフ	幼虫発生期

表2 もものクビアカツヤカミキリ・カミキリムシ類に登録のある主な農薬（成虫対象）

農薬の種類	農薬の名称	使用時期
ボーベリア ブロンニアティ剤	バイオリサ・カミキリ	成虫発生初期
チアメトキサム水溶剤	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで
アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで
シクラニプロール液剤	テッパン液剤	収穫前日まで

8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室（病虫害防除所）

電話 0561-41-9513（ダイヤルイン）